

I 学校の概要

1 校区の概要

(1) 校区の現状

旧美川町は金沢市より南西へ約20km、穀倉の金沢平野を貫流する手取川の河口部一帯を占め、北東は旧松任市、南は川北町及び旧根上町に接し、西は日本海に臨む地にある。校区は、13町（旧町8、新町5）からなっている。

校区は、水田が広がる中に集落の点在する農村地域であるが、国道8号線に接し、北陸高速道美川ICを持ち、大型農面道路の開通によって交通至便の立地となり、今後の発展が期待される。

新町の発展で、今後も旧町と新町の連携を大事にした、調和のとれた校区づくりが必要である。

(2) 校区の実態

校区面積 5.30 km²

校区人口 5,676人（男2,784人 女2,892人）

世帯数 2,170世帯 【令和4年3月末現在】

校区は主に農村地域と新興住宅地（ボストンガーデン）である。一時期増加傾向にあった児童数も、ここ数年はやや減少傾向となっている。

これまで農村地域としての各町会や区単位の伝統的な行事等の継続がなされてきた。しかし、居住者の増加と共に、生活様式の変化に伴う価値観の変化も見られる。

地域環境として、自然に恵まれ、米作りを中心にし、野菜、花などを出荷もしている。井関の「かきもち」や伝統文化としての「美川おかえり祭り」、「美川刺繍」等もある。また、「淡水魚の富魚（トミヨ）」が生息する地域でもある。

保護者の方々は、教育熱心で温かく、学校に対して協力的で、活動は積極的である。特に、子どもの通学の安全確保や防犯に対する意識が高く、各町毎に、パトロール隊や見守り隊が結成されて、91名の方々が安全隊のメンバーとして登録して頂いている。

2 児童の実態

素直で明るく、やさしい心を持つ子どもが多く、身体を動かすことが好きな子どもが多い。しかしながら、そんな素直さのある子どもではあるが、現在の情報化社会や両親とも働いている生活環境の中で、どこか寂しく、一緒に居たい思いの中で、「認められたい」「褒められたい」思いを持っている子ども達も多い。

子ども達の日常生活や学校生活の様子から、言葉遣い、挨拶、生活習慣、後始末等が十分ではない。学校生活の中から、日々の生活を見守り、重点的に指導をしていかなければならない。さらに、学習面や生活面において、自ら考え最後まで、粘り強く取り組むことの良さや満足感、達成感、充実感を抱く機会（実感）が少ない。この点においても、学校として重点指導事項としていかなければならない。

また、日々の授業の充実はもとより、宿題のあり方、繰り返しや継続の学習の工夫を通して、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の定着を図る努力をしていく必要がある。

3 教職員の構成

児童数	261	学級数	12	教職員	22	図書館司書	1
調理員	4	特別支援員	2	校務士	2	A L T	1
県スクールカウンセラー	1	スクールサポートスタッフ	1				